CASBEE あいち

▮評価結果▮

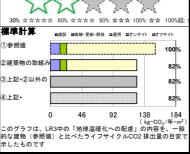
アル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き | 【使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICH



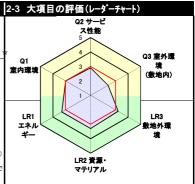




2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャ



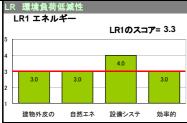
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0 3.0 3.0 2.5 音環境 温熱環境 空気質環境 光·視環境











産物が及び 日然エヤ 改編ノハ	37 划年的	
3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内	り緑化
	3. 7	2.0 外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
0.0.0.		25.7 %
	6	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材	り活用
	3. 2	1.0 <外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
222		〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。 ①地球温暖化への配慮 LR-3 1 地球温暖化への配慮 ②資源の有効活用

②資源の有効活用 Q-22 耐用性(信頼性、Q-23 対応性・更新性 LR-22 非再生性資源の使用量削減 ③敷地内の緑化 Q-31生物環境の保全と創出

(マン) 1 エガルス・グレーエーの III (利地域材の活用 (Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

中高木の樹冠の水平投影面積+低木・地被等の植栽面積 ×100 外構緑化指数= 敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた

屋上緑化面積+壁面緑化面積 建物緑化指数=



2 給排水管の更新性3 電気配線の更新性4 通信配線の更新性

5 設備機器の更新性6 バックアップスペー

0.17

0.11

0.22

3.0

3.0

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き 欄に数値またはコメントを記入■評価ソフト: 日本特殊陶業株式会社(仮称)小牧第3食堂棟新築工事 CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AIC スコアシート 実施設計段階 建物全体·共用部分 住居·宿泊部分 環境配慮設計の概要記入欄 配合项目 全体 重み 係数 評価点 重点项目 評価点 係数 2.8 Q 建築物の環境品質 Q1 室内環境 1 音環境 0.40 3.0 3.0 3.0 1.1 騒音 1.2 遮音 3.0 0.40 0.40 3.0 1 開口部遮音性能 2 界壁遮音性能 3 界床遮音性能(軽量衝擊源) 3.0 0.80 0.20 4 界床遮音性能(重量衝擊源) 1.3 吸音 3.0 2 温熱環境 2.5 0.39 2.5 2.1 室温制御 1 室温 2 外皮性能 2.0 0.50 0.50 1.0 3.0 0.17 3 ゾーン別制御性 3.0 0.33 2.2 湿度制御 2.3 空調方式 3.0 0.20 3 光·視環境 3.1 昼光利用 3.0 0.13 3.0 | 1 | 昼光率 | 2 | 方位別開口 | 3 | 昼光利用設備 | 3.2 グレア対策 3.0 1.00 1 昼光制御 3.3 照度 3.4 照明制御 4 空気質環境 4.0 4.0 4.1 発生源対策 4.0 1 化学汚染物質 2 アスペスト対策 内装材は規制対象外を使用 4.0 1.00 4.2 換気 1 換気量 4.0 0.30 0.50 3.0 2 自然換気性能 3 取り入れ外気への配慮 給排気位置を分離 0.50 5.0 4.3 運用管理 1 CO₂の監視 2 喫煙の制御 0.20 3.0 0.50 館内全面禁煙 Q2 サービス性能 0.30 2.9 1機能性 0.40 2.5 1.1 機能性・使いやすさ 3.0 1 広さ・収納性 2 高度情報通信設備対応 2 両及情報通信数 3 バリアフリー計画 1.2 心理性・快適性 1 広さ感・景観 2 リフレシスペー 3.0 1.00 1.5 0.30 3.0 0.26 3 内装計画 1.0 0.74 1.3 維持管理 維持管理に配慮した設計 0.30 3.0 0.50 2 維持管理用機能の確保3 衛生管理業務 0.50 3.0 2 耐用性・信頼性 2.9 0.31 2.9 2.1 <u>耐震·免震</u> 1 耐震性 2 免震·制振性能 3.0 0.80 0.20 2.2 部品・部材の耐用年数 3.0 0.33 1 躯体材料の耐用年数 3.0 0.23 1 恐体性科の耐用牛致 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 3 主要内装仕上げ材の連新必要間隔 4 空調換気ダクトの更新必要間隔 5 空調・絡排水配管の更新必要間隔 2 3.0 0.23 0.09 3.0 3.0 0.08 3.0 0.15 6 主要設備機器の更新必要間隔 0.23 2.4 信頼性 0.19 2.6 1 空調・換気設備 0.20 2 給排水·衛生設備 3 電気設備 4 機械·配管支持方法 2.0 0.20 2 3.0 0.20 3.0 0.20 5 通信·情報設備
3 対応性·更新性 2.0 0.20 3.4 3.4 0.29 階高 飲食店=4.8m、集会所=6.0m 0.31 壁長さ比率=0.17 4.0 0.69 3.0 0.31 3.3 設備の更新性 3.0 1 空調配管の更新性 2 給排水管の更新性 (2) 3.0 3.0 0.17

<u>^-/</u>	ノート 実施設計段階							
		独自基準		建物全体・共用部分				
配慮項目	3	重点项目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
Q3 室4	小環境(敷地内)			_	0.30	-	FK XX	2.4
	物環境の保全と創出	独自3		2.0	0.30		-	2.0
	なみ・景観への配慮	独自④		3.0	0.40		-	3.0
	食性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
	.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自(4)		2.0	0.50		-	2.0
	.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50			
	築物の環境自荷低減性			-	0.00		-	3.2
				_		-		_
	トルギー			_	0.40	-	-	3.3
	め外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.96	3.0	0.30	-	-	3.0
	ペエネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備	着システムの高効率化			4.0	0.30	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIm=0.79	4.0	1.00		-	
	集合住宅の評価(3c)				-	-	-	
4 <u>効</u> 率	本的運用			3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価			•	-	-	-	
	4.1 モニタリング			3.0	-		-	
	4.2 運用管理体制			3.0	-		-	
R2 音	原・マテリアル			_	0.30	-	-	3.3
	と 源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
	.1 節水		自動水栓、節水型トイレの使用	4.0	0.40			
	.2 雨水利用・雑排水等の利用		自動亦在(即亦主)「「「「」」	3.0	0.60			
	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67			
	2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.87		1	
0 453				3.3	0.63		-	
	写生性資源の使用量削減							3.3
	.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	
	.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25		-	
	.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	2	***************************************	3.0	0.21	-	1 -	
	.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	磁器質タイル、ビニル床シート	4.0	0.21		-	
	.5 持続可能な森林から産出された木材						-	
	.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	可動パーティションの使用	4.0	0.25			
	や物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		-	3.0
	.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3	.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
	1 消火剤			-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒			3.0	0.50		-	
R3 敷均	也外環境			_	0.30	-	-	3.2
1 地政	永温暖化への配慮	(1)	ライフサイクルCO2概算値:82%	3.7	0.33	-	-	3.7
	は環境への配慮			2.9	0.33		-	2.9
	1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
	.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
	.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25		-	
_	1 雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	独自		3.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	340		2.0	0.25		_	
3 8 2	2環境への配慮			3.0	0.23	-		3.0
	2環境への配慮 .1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			3.0
3	1 騒音・振動・悪笑の防止	福中		3.0	0.40			
		独自		3.0	0.50	i .		
	2 振動	独自		3.0	0.50	l	-	
<u> </u>	3 悪臭			-	0.40		-	
3	.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	•	-	
	1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制			1.0	-			
	3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3	3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
3				3.0 3.0	0.20 0.70		-	

重点項目スコアシート 日本特殊陶業株式会社(仮称)小牧第3食堂棟新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)			評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
1	地球温暖化	3. 7			
	LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
2	資源の有効	3. 2			
	Q2-2	耐震性·信頼性	2.9	0.09	
	Q2-3	対応性·更新性	3.4	0.09	
	LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
3	敷地内の緑	2. 0			
	Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:25.66%/建物緑化:0%
4	地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
	Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
	Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式 各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

	計画上の配慮事項
総合	高効率設備、節水器具、リサイクル材を採用し、省エネルギー・省資源に配慮した建物 を目指す。
Q1 室内環境	内装材は規制対象外を使用
Q2 サービス性能	階高のゆとり、空間の形状・自由さの確保
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化指数=25.7%
LR1 エネルギー	BPIm=0.96、BEIm=0.79
LR2 資源・マテリアル	節水型器具の使用
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2換算値=82%
その他	